古民家だより

No.71
令和6年(2024年)11月1日(金)
越谷市教育委員会　生涯学習課

大地震の傷が癒えないうちに、その傷をえぐるかのように起きた水害。「毎日ただ呼吸をしているというだけで、何をどのようにやったらいいか考える力がありません。」と絞り出すように語っていた姿が印象的でした。亡くなった方々のご冥福をお祈りいたし、被災された皆様へのお見舞いを申し上げます。

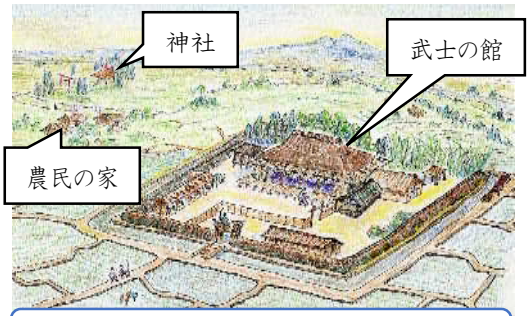
町の成り立ちを映す秋まつり

今月12、13日に5年振りに越ヶ谷秋まつりが行われました。この祭礼は“越ヶ谷”という町の成り立ちと発展に関わっています。(以下、『越谷市史　一』(越谷市教育委員会)、『久伊豆神社と宮本町』(久伊豆神社)等による。)

中世の始まりと久伊豆神社

昭和三三年の拝殿

久伊豆神社の創建は詳らかではありませんが、平安中期だと言われています。都で貴族の華やかな生活が営まれていたこの時期、地方ではそれまでなかった階層が生まれつつあったのです。この時代は**古代から中世への過渡期**でした。列島各地に中小の武士団が形成されていった時期です。後にはそれらは源氏と平氏の大武士団に組織されていきます。武士は“一所懸命”の土地を確保し拡げるために、互いに様々な関係を作りました。武蔵国(今の埼玉県と東京都、神奈川県の一部)には七つの中武士団が形成されました。越谷市域にはそれに属す小武士団が存在し、それら中小武士団の一部が信仰したのが久伊豆神社でした。以来、この地域の五穀豊穣と平安を祈り守る神様(御神霊)として信仰を集めています。



地方に小武士団が登場した頃の想像図

祭礼を担った町の人々

祭礼一日目の朝、お神輿が神社を出発しました。担ぎ手は宮本町の人々です。この町は以前は四丁野と言われ、久伊豆神社氏子によって形成された町だったからです。お神輿は旧越ヶ谷町を練り歩いた後、今回の祭りの幹事を務める「年番」である本町２丁目に設けられた「御仮舎」に収められます。このことを「渡御」と言います。翌日午後にはお仮舎から本殿に「還御」しました。年番の町の人は、この行列の先達・露払いの役割を務めました。

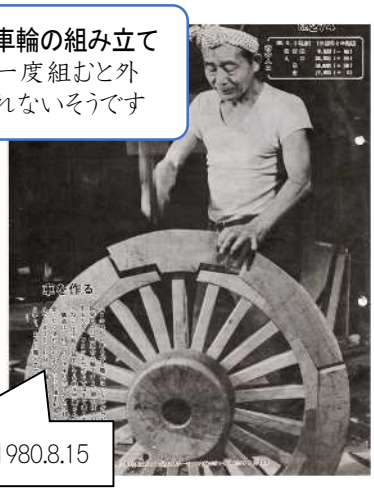
お神輿の装飾

渡御還御の行列の後には旧越ヶ谷町の中の8町(本町一丁目、同二丁目、同三丁目、中町、新石一丁目、同二丁目、同三丁目、弥生町)の山車が続きました。それぞれに自慢の人形を乗せています。

車輪は古代からの匠の技

8町が曳き廻す山車の車輪には古代からの匠の技が生きています。現代ではこれを制作する人が激減しているので、新石二丁目の山車車輪(左の画像)は飛騨(岐阜県北部)の宮大工に誂えたそうです。(昭和10年頃？)

車輪にはかなりの重量がかかるため、堅くてしなやかなケヤキや松が使われます。この車輪の造りは平安貴族が乗った御所車や祇園祭の山車と同様のものです。



車輪の組み立て
一度組むと外れないそうです

「市報むらかみ No.274」1980.8.15

人形師の心意気

山車の階上に載せる人形は歴史上や神話、中国の伝説の人物です。この内、新石二丁目、「鍾馗」の着付けを見せて頂きました。眼球には“義眼”を用い、顔の表情も極めてリアルなので、「生き人形」と称されるそうです。

胴は細く割った竹を組んだものに和紙を重ね貼りしています。大妻女子大学の是澤博昭氏によれば「この構造は山車が移動する時の揺れを吸収するので、人形の頭への影響が少ない」とのことです。

衣装は京都に誂えたそうです。「麒麟」がいくつも刺繍してありました。付属の綱の先端は房になっていますが、何年も仕舞ってあったので、ヨレヨレになっていました。人形師の方は「これは正絹なので、蒸気を当てるとシャンとなります。この房は観客からは見えない部分だけど、等閑(おろそか)にはしません。万一、他所の人形師に見られたら、越ヶ谷ではこんな半端な仕事をするのかと思われてしまいます。」とおっしゃっていました。

中村家住宅で **観る・聴く・感じる** 児童・生徒の体験学習

「屋根が なみなみ しているのは、なぜ？」

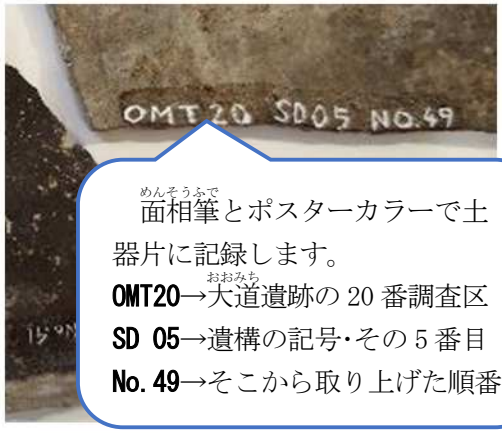
素晴らしい感性です！ これは先月に大間野町旧中村家住宅に社会科見学で訪れた市立大間野小学校3年生の発した言葉でした。

「甍」という言葉が日常的には使われなくなって久しく、実際、近年では工期や耐震、費用の条件から金属板やスレート葺の屋根が多くなりました。旧来の瓦は今後も少なくなることでしょう。それだけに瓦の形状に注目してくれたことは、とても嬉しいことでした。何百枚もの瓦が重なり合ってまるで波のように見えますね。そして棟にはまさに“青海波”と呼ばれる意匠の瓦があります。

「文化財保護は未来につなげる重要な仕事」

「越谷市中学生社会体験チャレンジ事業」では、市立南中学校2年生3人が旧東方村中村家住宅で2日間の体験学習をしました。1日目は施設について学び、案内の体験。2日目は市域の埋蔵文化財に関する体験。両日共に施設管理業務の一環として清掃も行いました。3人は「掃除が好き」と言っていました。

わずか2日間の体験でしたが、3人はとても大切な感想を残してくれました。



面相筆とポスターカラーで土器片に記録します。
OMT20→大道遺跡の 20 番調査区
SD 05→遺構の記号・その 5 番目
No. 49→そこから取り上げた順番

★200 年間変わらずに建っているものと思っていたが、時代によってリフォームしながら住んでいたことがわかった。
★好きじゃなかった社会科に少し興味を持った。
★文化財が保存されているのは誰かに知ってもらうためだけだと思っていたが、文化財があったことで過去の人々のやったことを知り未来につなげるは、とても重要なことだと思った。

慣れない木製の雨戸開閉も体験しました。